

小さな土蔵の建築展 / 主催：NPO 法人すてきなまち・赤岡プロジェクト

報告者：NPO 法人すてきなまち・赤岡プロジェクト 北川めぐみさん、楠瀬朋葉さん

■ 報告 ■

私たちは建築系や和裁、日本の伝統文化を継承していきたいという思いで活動しております。主には歴史的建築物の修繕を行うプロセスや、歴史的な建物を活用した様々なイベントを通して、魅力や価値を伝え、また赤岡を拠点に活動していることから、絵金の芝居絵が飾られている風景を未来に繋いでいきたいという思いです。2014年から毎月このような形で建物の修繕をワークショップ形式で行いながら徐々に建物を健全化させつつ、また、そのプロセスに一般の方に参画していただくことで歴史的な建物の魅力を伝えていきます。

昨年度、赤れんが商家にある土蔵を修理しました。今までは倉庫として使っていたのですが、せっかく綺麗になったので多くの方に観ていただきたいと思った時に、この土蔵が非常に小さなギャラリーのようだなと思ひまして、この土蔵をギャラリーに見立てまして歴史的な建物の解説ができる展示空間にしてみようということで企画をたてました。全体のプログラムとしましては、まずは展示を作ること自体もワークショップに仕立てようということ。また、そのできた展示を観ていただく建築展。展示内容を解説する建築ツアーという内容の四部の構成で展示計画を行いました。

芸術祭の期間前、8月からワークショップを始めました。建物の内容を参加者さんに解説して、一緒に展示のキャプションを作る作業や、実際に作ったキャプションをワークショップの参加者と一緒にしつらえるような作業も行いました。

第一部は「香南の商都赤岡」ということで町の歴史や成り立ちを模型や古い町の地図で紹介しております。第二部は「町のシンボル赤れんが商家」の紹介をしております。もともと赤岡村の初代村長さんの家だったということで、村長さんの小松与右衛門さんの年表であったりとか、赤れんが商家がどんな風に家の形が変わって来たかということや年表にまとめたりですとか、一昨年ワークショップで家から出てきた古い配置図を修復しましたので、そちらの展示をしました。第三部「町家をつくる技術」ということで、レンガや木組み、土壁、瓦、和紙など、家を作る素材の紹介をパネルで展示しております。母屋にも展示をしまして、ワークショップで作ったキャプションを家のあちこちに貼っております。

展示建築ツアーでは、ワークショップに参加してくださった方だったり、地域の方がふらっと立ち寄って、ご近所の方が急にネギを配りにきて皆に渡すというイベントが発生したり、とアットホームな感じでした。

成果と課題点としましては、展示を作る過程を一般の方々と協働して歴史文化の理解を深める機会を創出できたことや、見応えのある展示などいろんな反響をいただきました。大変だったこととしては、パネルが多くて分かりやすいものにするのに苦労しました。告知についても集客に工夫出来たらよかったなと思っております。

■ 視察委員の意見・質問 ■

一案内ツアーに2回参加させていただいたのですが、仰っていた絵金祭りの風景を残したいというところで、建築家の目線で軒先が必要である、軒先がないと絵金の原風景を残していけないというお話を聞いた時に、目から鱗が落ちました。そういう目線で見たことがなかったと思いました。もし一人でふらっと行

って案内ツアーがなかったら、5分、10分で出てくるだろうと思いました。案内していただいて、歴史やこの梁の意味、釘の意味、レンガのことも教えていただくと、そこに生きていた人たちの息吹が立ち上がってくるような感覚があり、これが「意味」なんだと思いました。

皆さんで出せるお金を出して、赤れんが商家を買い取った本気度もすごいなと思いました。助成金ありきではなく、継続していることが決まっている中で、助成金が何かしらのサポートになったのなら、意味があるのだと思いました。

この事業に限らず感じることなのですが、本体をやるだけでも大変なのに広報にどれくらいマンパワーをまわせるのか、といつも視察に行っていて思います。広報まで手が回りますか。(大原恵里子委員)

ー広報も今回全然できなくて、毎月「あかおかわらばん」という広報誌を赤岡町内全世帯に配布していて地元には伝わっているのですが、より広くとなると「こみゅっと」とか、今回、建築系の展示でしたので、同時期に全国の近代化遺産ネットワークの一般公開があり、広報するチャンスはいろいろあったのですが、日常に追われてやり抜かしてしまいました。

少しやれば出来ることなのですが、もう少し役割分担していたら出来ていたのではないかと反省しているところです。